

カリフラワー導入による 水田高度利用の実践

田中 雅生

魚沼農業普及指導センター

普及指導センターでは、今後生産拡大を図っていききたい園芸品目をパンフレットで紹介するなど、J A北魚沼とともに園芸振興を図っています。

その中で、カリフラワーを水田高度利用により拡大できる品目として位置づけ、推進しています。

平成28年度は、4経営体・51aでホールクroppサイレージ用稲の跡にカリフラワーが栽培されました。

導入時の留意点はいくつかありますが、排水不良地では高うねにするなどの湿害対策がポイントとなります。

普及指導センターでは、水田高度利用の積極的な実践に向け、今年度からアップカットロータリーの貸し出しを始めているJ A北魚沼と連携し、「アップカットロータリー使用による碎土率の向上+高うね栽培の実施による排水性改善」についての実証ほを設置し、その効果を検討しました。

実証試験は、アップカットロータリーにより碎土を行い、うねの高さを通常より5cm高くするという区を設けて行いました。

試験を実施した農事組合法人あぐり下倉新田のほ場は、平成27年度も20a区画の水田を使ってそ

ばとカリフラワーを栽培しましたが、長雨と排水不良に泣かされ、市場出荷できるカリフラワーの収穫がほとんどありませんでした。

今回の試験は、同じほ場内で場所をかえて行い、試験区における排水性改善の効果を確認しました。

品種は「雪まつり」。8月17日にアップカットロータリーを用いて耕うん・うね立てを行い、すぐに苗を定植しました。

生育は順調に進み、アップカットロータリーの活用による高い碎土率と高うねの形成により、地下部の根の生長量が確保され、収穫時には株がほ場全面を覆い、植え付けした苗の8割以上を市場出荷することができました。

また、J A北魚沼とともに管内農業者を対象とした現地研修会を開催し、実証の成果を直接確認しました。

普及指導センターは、今回のホールクroppサイレージ用稲+カリフラワーを優良事例として、地域の水田高度利用を引き続き後押ししていきます。



園芸導入パンフレット



9月1日の現地研修会